

北朝鮮経済の現状と展望

梁文秀（北韓大学院大学）

2013/8/29

1

목 차

1. 経済指標を通じて見た北朝鮮経済
2. 経済の二重構造化
3. 後進国型産業構造への後退
4. マクロ経済の不安定性の拡大
5. 経済の対外依存性拡大
6. 所得格差の拡大
7. いくつかの残された問題

2

1. 経済指標を通じて見た北朝鮮経済

- 1990年から98年まで衝撃の9年連続マイナス成長を記録
 - この期間で国民所得(GNI)は30%も減少
- しかし、1999年から2005年まで7年連続プラス成長達成
 - 外部世界の支援と北朝鮮自信の努力による
 - 以後、マイナス成長(2006、07、09、10年)とプラス成長(2008、11年)
- 経済が本格的な回復局面に入ったとの評価は難しい
 - GNIはいまだに1990年の水準にまで回復できていない
 - 経済が自発的な成長の基盤を備えるようになったと評価するのはより困難

3

1. 経済指標を通じて見た北朝鮮経済

<表> 北朝鮮の主要経済指標

	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
名目GNI (億米ドル)	232	229	211	205	212	223	214	177	126	158	168	157	170	184	208	242	256	267	248	224	260	293	297
1人当たりGNI (米ドル)	1146	1115	1013	970	989	1025	975	796	563	700	739	686	738	792	887	1027	1078	1120	1036	932	1074	1204	1216
名目GNI (兆ウォン)	16.4	16.8	16.4	16.4	17.0	17.2	17.3	16.8	17.6	18.7	19.0	20.3	21.3	21.9	23.8	24.8	24.4	24.8	27.3	28.6	30.0	32.4	33.4
1人当たりGNI (万ウォン)	81	82	79	78	80	79	79	76	79	83	84	89	92	94	102	105	103	104	114	119	124	133	137
実質経済成長率(%)	-4.3	-4.4	-7.1	-4.5	-2.1	-4.4	-3.4	-6.5	-0.9	6.1	0.4	3.8	1.2	1.8	2.1	3.8	-1.0	-1.2	3.1	-0.9	-0.5	0.8	1.3
対外貿易規模(億米ドル)	41.7	25.8	25.6	26.5	21.0	20.5	19.8	21.8	14.4	14.8	19.7	22.7	22.6	23.9	28.6	30.0	30.0	29.4	38.2	34.1	41.7	63.6	68.1
予算規模(億米ドル)	166	172	185	187	192	n.a.	n.a.	91	91	92	96	98	n.a.	n.a.	25	29	30	32.2	34.7	36.6	52.4	58.4	62.3
対ドルレート (ウォン/米ドル)	2.14	2.15	2.13	2.15	2.16	2.05	2.14	2.16	2.20	2.17	2.19	2.21	2.21 (1'6)	145.0 (1'6)	139.0	140.0	141.0	135.0	130.0	134.2	101.3	98.3	101.5

(出所) 韓国銀行、統一省
 (注) 対外貿易規模は南北交易を含まない。2004年以降2010年までの予算規模は、2002年以降及び2010年の新たな対米ドル為替レートによる数値

4

1. 経済指標を通じて見た北朝鮮経済

□ 経済の部門別状況

- 食糧不足、エネルギー不足、原材料不足は全く解消されていない状態
- 住民生活と関連して決定的な重要性を持つ配給制(供給制)は有名無実化

<表> 2000年代の北朝鮮の食糧需給の推移

(単位:万トン)

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
生産量 ¹⁾	404	423	440	440	454	461	400	439	435	441	465
支援量 ²⁾ (韓国)	153 (10)	121 (50)	96 (50)	88 (50)	118 (50)	36 (10)	77 (40)	50 (-)	30 (-)	36 (0.5)	44 (0)
最小所要量 ³⁾	505	508	512	515	518	521	523	526	529	531	534
不足量	△52	△36	△24	△21	△54	46	45	37	64	54	25

(出所)韓国農村経済研究院

(注) 1) FAO 2) WFP Interfais (韓国の支援量は政府支援のみを計上)

3) 2010/11年北朝鮮の食糧所要量は534万トン(FAO, 2011.3)を基準として2000~2010年は、人口比例で再作成(人口は韓国統計庁発表資料)

5

1. 経済指標を通じて見た北朝鮮経済

<表> 南北朝鮮の経済規模の比較(2012年)

	北朝鮮(A)	韓国(B)	B/A
人口(千名)	24,427	50,004	2.0
名目GNI(兆ウォン)	33.5	1,279.5	38.2
1人当たりGNI(万ウォン)	137	2,559	18.7
貿易総額(億ウォン)	68.1	10,674.5	156.7

(出所)韓国銀行

(注)貿易総額は南北交易を含まない数値

□ 韓国銀行の推定によれば、南北朝鮮の経済力格差は38.2倍であるが、専門家はこれよりも大きいものとみている

- なぜならば、韓国銀行の北朝鮮経済力の推計の絶対値(名目GNI, 2012年 297億米ドル)は信頼性に対する論争の余地が存在。専門家は北朝鮮の名目GNIが100億米ドル前後であるとみている。
- そうであるとすれば、南北朝鮮の経済力格差は100倍前後に拡大しうる。

6

2. 経済の二重構造化

□ 北朝鮮は現在、国民経済と言える範疇が事実上なくなった状態

- マクロ経済の再生産構造、循環構造が破壊された状態
- 国民経済の分節化、破片化
- 大きくみて計画経済と市場経済
- あるいは特権経済(党経済、軍経済)と内閣経済の二重経済化

□ 国民経済に対する一種の二重構造化戦略

- 北朝鮮当局は、国民経済全体を引っ張っていくことを事実上放棄
- 基本的に特権経済(党経済、軍経済)、一部の内閣経済は自身が責任を持ち、
- 住民経済と一部内閣経済に対しては、自身が責任を放棄
- 2002年の 7.1措置はこのような二重戦略の公式化という性格を持つ

7

2. 経済の二重構造化

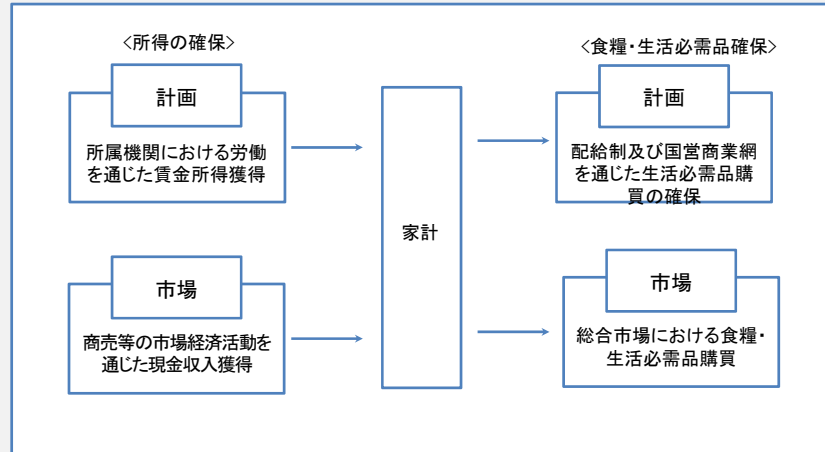
<表> 北朝鮮の特権経済

区分	主要組織・機構	経済単位	全体の人力	基本的な機能
党経済	国防委員会 党/傘下機関 護衛司令部 国家安全部 人民保安省 各傘下機関 その他権力機関	-党財政経済部 -39号室, 38号室 -金融機関(銀行) -貿易会社及び傘下の工場企業 所/農場等約150~200カ所	約50~60万名	体制維持 指導者個人維持 対南事業 その他戦略事業
軍事 経済	第2経済	-軍需工場及び軍需品職場計300 ~500カ所 -傘下の貿易会社 -金融機関(銀行)	約50万名	武器/装備研究開発、生産
	軍経済	-自身の軍需工場 -貿易会社及び傘下の控除寿企業 所/農場等約100カ所 -部隊の副業経営/工場/農場 多数 -金融機関(銀行)	約150万名	軍事品生産/運営 軍の運営維持

8

2. 経済の二重構造化

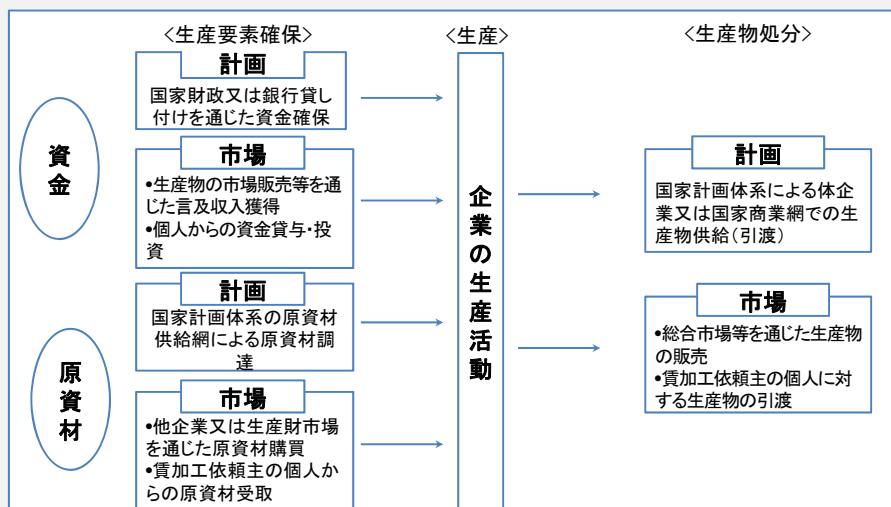
〈表〉計画と市場の共存形態：家計の観点から



9

2. 経済の二重構造化

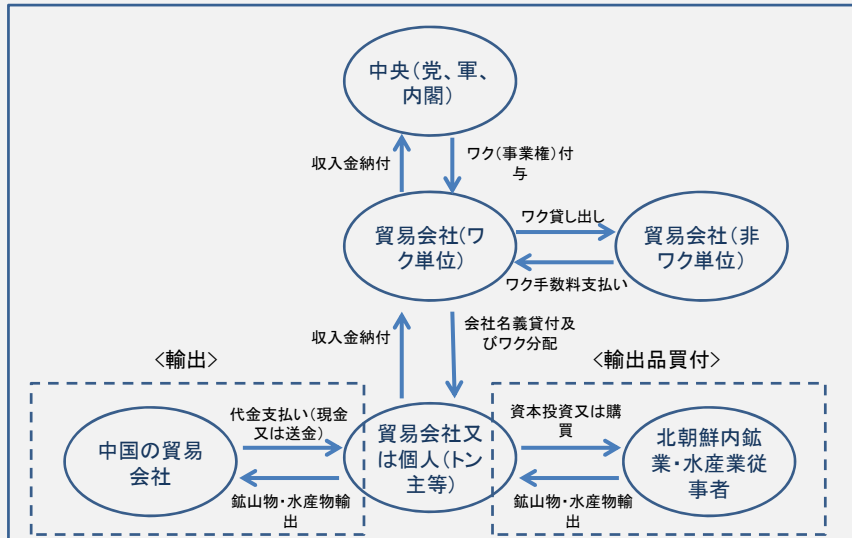
〈表〉計画と市場の共存形態：企業の観点



10

2. 経済の二重構造化

<表> 計画と市場の共存: 貿易の事例



11

2. 経済の二重構造化

<表> 市場に対する国家の依存: 市場と連係した租税の諸類型

区分	租税の直接的な納付者	租税の実質的な負担者	租税と市場の連係形態
工場、企業所の国家企業利得金	工場、企業所	工場、企業所及び消費者	稼ぎ高 (計画外生産及び流通)
総合市場の市場使用料、国家納付金	総合市場売台商人	商人及び個人の手工業者、消費者	総合市場内商品販売
サービス業の国家納付金	収買商店、合意制食堂、ビリヤード場、カラオケ等のサービス業者	サービス業者及び消費者	一般住民に対するサービスの販売
貿易会社収益金	貿易会社	貿易会社、機関、企業所、国内流通業者、消費者	輸出品の国内買付、輸入品の国内販売
土地使用料及び不動産使用料	機関、企業所、協同団体、個人	機関、企業所、協同団体、個人	土地、住宅、建物等の国土を使用する諸々の市場経済活動

12

3. 後進国型産業構造への後退

- 北朝鮮の産業構造は典型的な後進国型へと後退
 - 工業基盤崩壊により工業(特に重化学工業)の比重が大幅に縮小
- プラス成長基調は維持できても、いわゆる持続可能な成長を保障できない状態
 - 貧困の沼、低成長の陥穽(落とし穴)

13

3. 後進国型産業構造への後退

<表> 北朝鮮の産業構造の変化

(単位: %)

	1990	1992	1994	1996	1998	2000	2002	2004	2006	2008	2010	2012
農林水産業	27.4	28.5	29.5	29.0	29.6	30.4	30.2	26.7	23.3	21.6	20.8	23.4
鉱業	9.0	9.2	7.8	7.1	6.6	7.7	7.8	8.7	10.2	12.1	14.4	14.0
製造業	31.8	24.6	23.6	20.9	19.0	17.7	18.0	18.5	19.5	22.5	21.9	21.9
(軽工業)	6.2	6.3	7.0	6.9	6.4	6.5	6.9	6.7	6.7	6.7	6.6	6.7
(重化学工業)	25.6	18.3	16.6	14.0	12.6	11.2	11.0	11.8	12.8	15.8	15.3	15.2
サービス業	18.0	23.5	27.9	32.3	35.6	32.5	31.6	32.3	33.6	32.2	31.0	29.4

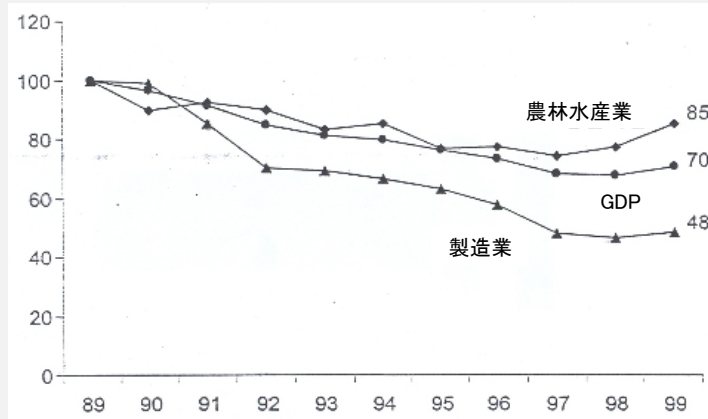
(出所) 韓国銀行

(注) 名目基準

14

3. 後進国型産業構造への後退

1990年代北朝鮮のGDPの推移
(1989年=100)



15

4. マクロ経済の不安定性の拡大

□ 北朝鮮は経済危機を通じて新たな経済的課題を抱えるようになった。

代表的なものはマクロ経済の不安定性の問題

- 財政難、インフレ、為替レートの不安定さ
- これらは1990年代以前には全く問題にならなかった事案

□ 北朝鮮の財政危機は1990年代中盤から本格化

- 1994年 191.9億米ドルから1997年には半分に近い水準の91.3億米ドルに急落
- 7.1措置以後、国家の税収拡大能力の大幅な強化にもかかわらず、財政難が解消せず

□ 北朝鮮のような社会主義国家においては、予算減少の衝撃が資本主義国家よりも比較にならないほど大きくなる特性を持つ

- 社会主義計画経済は、財政の機能及び影響範囲が資本主義の財政よりも広いのが特徴
- したがって、財政危機は国家経営だけでなく、国営企業の全般的運営に対してもボトルネックとなる作用をする

16

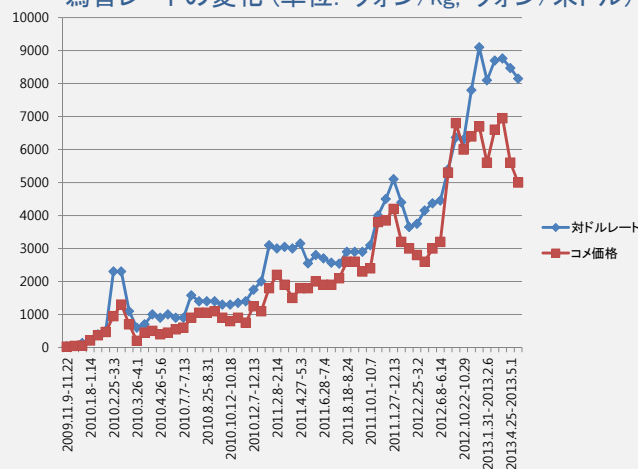
4. マクロ経済の不安定性の拡大

- インフレは公式経済の崩壊および市場発達のプロダクト
 - マクロ経済指標上の実物経済の動きと正確に反対方向に動く
 - 実際に経済状況が最も良くなかった1998年には闇市場価格は最高水準に到達。当時のコメ価格は固定価格の1000倍の水準。
- 7.1措置以降もインフレは収拾せず
 - 北朝鮮当局は7.1措置を通じて固定価格と市場価格の格差をなくしたが、7.1措置以降にもインフレが再び進行
 - 2009年11月の貨幣改革以降、インフレ激化
- インフレは政治、社会不安として作用
 - インフレは基本的に計画経済部門ではなく、市場経済部門の現象
 - しかし現在では程度の差はあれすべての住民が市場に依存
 - インフレは特に政権の核心的基盤である固定給与生活者に打撃

17

4.4. マクロ経済の不安定性の拡大

<表> 2009年貨幣改革以降平壤の市場でのコメ価格および為替レートの変化 (単位: ウォン/kg, ウォン/米ドル)



(出所) デイリーNK

18

4. マクロ経済の不安定性の拡大

＜表＞ 北朝鮮の市場レートと物価の長期的トレンド

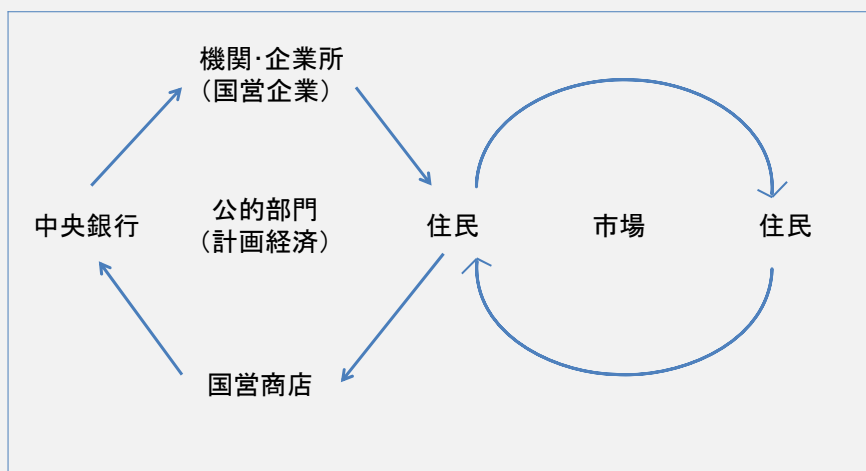
	ウォン/米ドルレート (ウォン/US\$)	コメ価格 (ウォン/kg)	コメ価格 (US\$/kg)
2002.2/4 (A) (7・1 措置直前)	260	60	0.230
2009.11 (B) (貨幣改革直前)	3,800	2,200	0.579
2013.6 (C)	815,000	500,000	0.613
B/A	(15倍)	(37倍)	(2.5倍)
C/B	(214倍)	(227倍)	(1.1倍)
C/A	(3,135倍)	(8,333倍)	(2.7倍)

(注)2009年貨幣改革以前の貨幣基準

19

4. マクロ経済の不安定性の拡大

＜表＞ 経済危機以降の北朝鮮の貨幣流通過程



20

4. マクロ経済の不安定性の拡大

- 経済危機以降、北朝鮮経済はドル化(dollarization)現象が拡大・深化
 - 経済危機初期には、外貨は交換手段というよりは価値保存のための金融資産
 - 国内供給不足深化等により、インフレが進行、北朝鮮ウォンの価値が持続的に下落
 - 1992年の貨幣改革以降、追加的な貨幣改革による貨幣奪取の危険性が常存
 - 北朝鮮住民はウォン保有を忌避し、外貨保有を愛好する傾向

- 市場化進展、2000年に入り、中国との貿易増加等、北朝鮮の実物が海外に対する依存度が大きく高まり
 - 現在、外貨は価値貯蔵手段のみならず、交換手段としてまでその用途が拡大
 - これにともない、住民たちの北朝鮮ウォン忌避、外貨選好傾向はより尖鋭に
 - ドル化、人民元化現象はより進展
 - 2009年の貨幣改革は、北朝鮮のドル化現象を加速化する契機として作用

21

5. 経済の対外依存性拡大

- 経済危機の経験を通じて北朝鮮の対外依存性が拡大
 - 内部資源の枯渇による自然現象という側面
 - 外部の力に依存しなければ、到底生存が難しい脆弱な(経済)構造

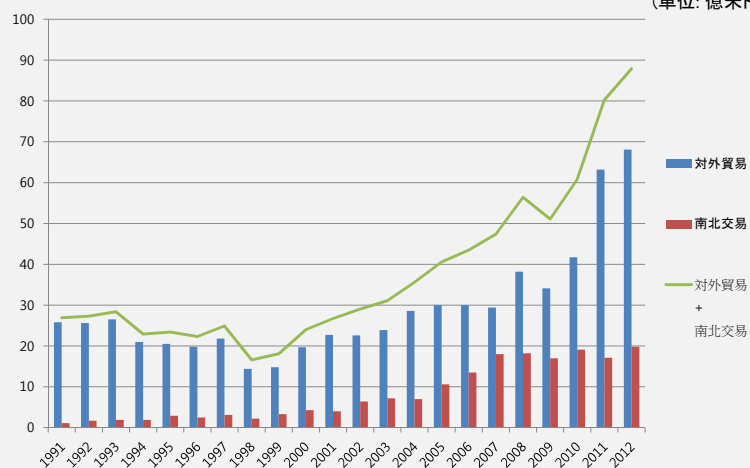
- 2000年代北朝鮮経済の対外依存性は、韓国と中国という二つの国に対する偏重現象が突出している点が最も大きな特徴
 - すなわち、対外依存的とはいえ、全世界に対する依存性ではなく、この2つの国に対する依存性であるという点に注意
 - 2000年代に入り、中朝間の政治的関係が復元するなど、中朝経済協力が拡大。2000年の南北頂上会談以降南北間の交流協力も拡大

22

5. 経済の対外依存性拡大

<表> 北朝鮮の対外貿易および南北交易の推移

(単位: 億米ドル)



23

5. 経済の対外依存性拡大

□ 北朝鮮の対中貿易依存度は拡大的に上昇

- 1990年に北朝鮮の貿易全体に占める中国の比重は25%に過ぎず
- 2000年代に入り、大きく上昇。07年に中国は北朝鮮の対外貿易(南北交易除く)の67.1%を占める。この数値は08年73.0%、09年78.5%、10年83.0%、11年89.0%、12年88.3%に上昇

□ 南北交易は萎縮、中朝貿易は拡大→中朝貿易に比べて南北交易の比重は継続して下落

24

6. 所得格差の拡大

- 北朝鮮において、所得格差、不平等の問題が浮上したのは、国家が一般住民の生計を保障する伝統的な分配システムが崩壊したことによる
 - 伝統的な分配システム: 賃金制度および食糧配給、生活必需品供給制等
 - このような分配システムが崩壊し、現在では住民は自らの生計問題を自らで解決する必要
 - 結局、個々人が持っている条件により格差が発生するようになる

- 個々人の現金収入獲得をはじめとする生計問題快活は「市場」と密接に関連しているため、市場化の進展による不平等は拡大する公算大
 - 特に市場化の北朝鮮的特徴は、不平等の構造にも北朝鮮的な特徴を付与(社会制度、階層、権力構造等)

25

6. 所得格差の拡大

- インフレが進展するなかで、現物および外貨を保有した人々と現金を保有する人々間での実質所得の格差が拡大
 - 配給を受ける特権層(「配給制階級」と市場経済に依存せざるを得ない一般住民たち(「自力更生階級」)間の実質所得格差が急速に拡大
 - 貨幣改革は中間層の没落という側面から所得不平等構造を深化させる側面

- 地域的には平壤とその他の地域、国境地域と非国境地域、都市と農村の格差が拡大

- 国家的範囲で見ても、平壤(革命の心臓部)に財政が集中的に投入
 - 2012年には平壤の万寿台地区倉田通り竣工式が挙行
 - 同年、錦繡山耐用宮殿工事をはじめとして倉田通り人民劇場、ミニゴルフ場、人民野外スケート場等、平壤市内30余力所にサービスおよび娯楽施設が新改築
 - 金正恩への権力承継とも関連性

26

6. 所得格差の拡大

＜表＞ 国境地域の各階層別生活水準比較 (2006年現在)

	月間支出	1日あたり食費	食事の内容	住宅価格	主たる収入源	その他
上層住民	100万ウォン	3万ウォン	白米、豚肉、鶏卵10個、明太3匹、各種果物、野菜等	2,700万～4,000万ウォン	闇取引、麻薬売買、骨董品取引、卸売等	ベッドで生活、各種電子製品を備える。家政婦雇用
中層住民	10～15万ウォン	3,000～5,000ウォン	白米、肉、鶏卵、野菜、酒等	150～400万ウォン	闇取引、密輸、商売、中国の親戚の支援等	
下層住民	3～4万ウォン	1,000～1,500ウォン	白米：トウモロコシ5：5の雑穀飯トウモロコシ麺、野菜粥	20～150万ウォン	野菜の商売、家の修理、日雇い等	資本がなく商売ができない
極貧層	.	.	絶食	.	なし	

(資料) 良い友達、今日の北朝鮮消息 (2006.6.14)

27

6. 所得格差の拡大

＜表＞ 2007年以降生計癒着型貧富格差拡大現象

アンケート内容		大変そうだ	少しそうだ	それほどでもない	全くそうではない	合計
権力がある人たち又はその人たちと関係のある人がよりよく暮らすようになった	回答数(名)	125	61	5	1	192
	比率(%)	65.1	31.8	2.6	0.5	100.0
貧富の格差がより拡大した	回答数(名)	126	58	7	1	192
	比率(%)	65.6	30.2	3.7	0.5	100.0

28

7. いくつかの残された問題

- 今日、北朝鮮経済の性格をどのように規定すればよいのか
 - 社会主義経済なのか？ 開発途上国経済なのか？
 - 多層的二重経済構造なのか？ 公式／非公式、市場／計画、特権／一般
- 北朝鮮の民間外貨保有そして内需
 - 携帯電話加入者200万名、アパート(マンション)建設ブーム
- 市場化の長期化、そして市場化に対する国家の政策変化は如何に？
 - 危機と適応の問題
- 市場化と社会安定／不安定の問題：二つの相反した力が作用
 - 富益富、貧益貧現象 vs 中産層の編成

29

ご清聴ありがとうございました

30